

大川睦子さん(大阪)

内容に関しては全部書ききれず、一部のクライアントのみの活動内容や様子を簡単に記載しています。
施設はレクリエーションとして考えていただいている部分が多いが、回を重ね評価を交換しているうちよい部分を認めていただき、スタッフの方の見方も少しずつ変わってきています。私も計画と実施など一人で行っていることで、スタッフの方の意見アドバイス、援助もとても貴重です。

クライアントの方々がいかに楽しんでいただきながら活動でき、いきいきとそして喜んでいただき、少しでも生活の役にたてるように、それぞれの方に合わせて内容を試行錯誤しています。

今回こんな報告の機会をいただき、本当に拙い経験と活動ですが、報告させていただくことで、同じように活動されている方々との勉強の機会が持てるようになり、今後の活動のためになればよいなと思います。

高齢者

S株式会社 通所介護施設

毎週 1回 1時間 現在1年9ヶ月

各10人前後の集団セッション

内容

- ・歌体操 ・腕、足、首 指先を歌いながら、棒 パチ 布 などを持ちながら振りながら動かす。
- ・リズム楽器」(手作りパチ 手作り鈴 鳴子 鈴 マラカス タンバリン 小トライアングル 打楽器 (ハンドドラム ポンゴ ジャンベ)を使いリズム感の回復、身体機能の訓練、脳のトレーニング。
- ・歌による回想
- ・字抜き歌、歌クイズ、替え歌
- ・メロディーベルの演奏練習
- ・集団レクリエーション 鈴の輪 大布
- ・季節の歌 童謡、唱歌、民謡、歌謡曲、演歌、ポップス、などを歌唱、鑑賞。

★プロジェクターでホワイトボードに毎回の内容、歌詞、指示、話題、写真、イラスト、昔の映画の場面や写真、風景などを映して、視覚、聴覚への補助をしている。

クライアントの様子

クライアントの通所の曜日が様々なので、いろいろな方が参加できるように、セッションは週に1度ですが、同じ曜日ではない。したがって継続して一定の評価はしにくいですが、全体的にリズム感が回復してきて歌に合わせたリズム打ち、支持に対する反応や集中が良くなってきている。楽器への慣れもあると考えられるが、演奏が力強くなってきている。

痴呆が進み、一見反応が乏しいと思われる方も楽器を持つとリズム感を発揮してよい表現をされていることが多々ある。また歌われると小さな声ですが、歌詞をしっかりと歌っておられる。そんな時マイクに向けて、ほかの人に聞こえるようにすると表情がよくなる。

歌がお好きな方が多く、セッションが終わってから歌に関する思い出、昔のご自分のこと、親兄弟子ども、夫のことなどお話が弾む。

障がい者

1. 社会福祉法人S会 地域生活総合支援センター 生活介護 就労継続支援B型施設

1)グループA 隔週 1時間 知的障がい者 20代 30代 7名 現在4年目

内容 昨年まではほとんどグループ活動で、リズム活動、ベル合奏演奏活動、ダンス、打楽器演奏活動、歌唱などを行ってきたが、今年からそれらの基礎をもとに個々に応じた個別の楽器演奏練習をして、発表 する機会を設けている。

クライアントの様子

マヒした手を工夫してキーボードを弾いたり、細かいリズムを刻んだりご自分で考えていい表現ができています。始めの歌や終わりの歌を弾いて皆さんの役に立つことを喜びとしている方、好きな曲を演奏して喜んでいる方、色音符を見ながらキーボードを滑らかに弾いている自閉症者、好きな歌を歌いながら演奏を楽しんでいる方、それぞれ達成感を持ちいい表情で活動されている。

2)グループB 隔週 30分 知的障がい者 主に重度自閉症20代前半4名 現在3年目

3)グループC 隔週 30分 軽度知的障がい者 自閉症者 軽度身体知的重複障がいなど5名 現在2年目

4)グループD 毎週 1時間 重度重複障がい者 進行性の疾患者 のべ12名 曜日によるので1回は6名程度 現在4年目

内容

主に、感覚刺激と生活経験を広げる、覚醒状態を維持することを目的。少し動ける方は打楽器の活動、歌唱活動を通して機能訓練をしている。時々作業療法士、スタッフとともに器具やボールを使った活動も取り入れている。

クライアントの様子

一定の歌、私の歌声に反応して覚醒される方が数名いる。楽器活動で意欲的に体を動かしている。感覚が敏感で楽器を嫌がっていた方が、少しずつ慣れて触れるようになった。

2. 社会福祉法人S会 生活介護 就労継続支援B型施設<H>

1)個別セッション 自閉症者4名 月に1度 各20分 主に20代 現在1年6ヶ月

日中活動になかなか取り組みにくく、情緒不安定な方々でしたが、回を重ねるごとに安定して活動の幅が広がり、生活の質も高まったとスタッフや保護者の方に喜ばれている。

Y氏

開始当初は一つの活動が長くなると多害が出ていたが、現在は一つ一つの活動持続時間も長くなり、こちらの指示の入り方も良くなっている。

楽器によって音へのこだわりがあったが、気持ちの安定とともに受容できるものが増えてきている。

打楽器のリズム表現が気持ちの高ぶりとともに早く荒くなることが多々あったが、現在は歌に合わせて打つこともできる。

N氏

日中集中して取り組める活動に乏しい方(スタッフの方からの情報)ですが、ボンゴやジャンベなど太鼓に興味を持ち、記号によるリズム打ちに集中して取り組む。

文字による指示でメロディーベルの演奏に集中して取り組む。昨年忘年会で皆さんの前で演奏して好評を得てご本人も達成感を味わっておられた。

T氏

日常ほとんど部屋の仕切られたコーナーの中で過ごすことが多い方で、活動への取り組みも難しい方(スタッフの方の情報)です。コーナーの近くにセッション場所を設定して行う。

初めはコーナーから出て来られなかったり、来られても腕組みして無表情で観察されていた。しかし、4回目から子どもの頃経験していた打楽器活動へ笑顔で取り組むようになった。オートハープ、メロディーベルなど初めての楽器には陰い表情をされ見ているだけだが、次の回には取り組まれる。またご自分から手を出される。

8回目ではこちらがセッションの用意をしていると、ご自分からコーナーから出てきて椅子に座って準備できるのを待っておられた。

とてもリズム感がよく、テンポの変化のある曲にも上手に対応して太鼓打ちをされる。

スタッフからの評価へ褒められることで、さらにやる気になっている。普段見られない行動や表情が見られる

M氏

日常は情緒不安定で、破壊行動、大きな声での私語(他の人が聞いて不愉快になる言葉など)周囲への要求が多いので個室で過ごしている。

次のスケジュールが絶えず気になる。何か違ったことがあると興奮状態になる。スタッフの方からの要望で20分間安定して過ごすことを第一目的としている。セッションの時は生活の場と場所を変えている。

セッションのプログラムを時間初めに示して確認して、一つ終わるとシールを貼る作業をしながら進めていことにより、落ち着いてセッションに取り組める。

ご本人は活動自体がお好きで落ち着くととてもいい表情で楽しんでおられる。ご本人の特性をつかみ、情緒の不安定に事前に対応できるように工夫することに時間と回数がかかり、スタッフの方と相談しながら試行錯誤したが、現在はほとんど落ち着いて取り組まれるようになった。しかし、現在もほんの少しのことで気持ちが変わってしまうので、細心の注意を払い観察しながら進めている。

気持ちが安定すると活動自体はリズム感もよく、指示もよく入るので、打楽器でのリズム活動でコミュニケーションをとる練習、集中力をつける機能訓練などを行っている。

新しい活動にはとても集中できるが、慣れてくると新たな刺激を求めて不安定になる。歌がお好きでたくさんご存知で、一緒に歌うことで表情がよくなり情緒も安定する。

歌により、大きな声、小さな声をコントロールする練習をしている。呼吸により情緒を安定させる練習もしている。

2)グループA 7名 月に1回 1時間 20代 知的障がい者 自閉症者 1年7ヶ月目

3)グループB 5名 月に1回 30分 20、30代 知的障がい者 1年5ヶ月目

4)グループC 4名 月に1回 30分 20～50代 知的障がい者 1年5ヶ月目

5)グループD 6名 月に1回 40分 20～40代 自閉症 知的障がい者 身体障がい者

6)グループE 4名 月に1回 40分 20 30代 知的障がい者

7)グループF 12名 月に1回 1時間 20 30代 身体障がい者 知的障がい者(重度)

自閉症アスペルガー症候群者 視覚障がい者

スタッフの方からの要望を聞き、それぞれのグループの方々の目的に合わせてプログラムを組み、終了後は個々に対して評価を双方で文書で交換して次へつなげている。

打楽器活動、ダンス、合奏、メロディー楽器演奏、歌あそび、歌唱、リズム楽器活動などで楽しんで体の大きな動きを促す、体や脳の機能の活性化を促す、やる気を促す、達成感につなげる、気分転換、発散をはかる、などを行っている。